

平成26年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－8号)

農林総合研究センター
平成26年7月18日調査

気象経過

1. 7月第2半旬の平均気温は、金沢、輪島ともかなり高かった（金沢：+2.2℃、輪島：+2.3℃）。日照時間は金沢、輪島ともに平年並（金沢：93%、輪島91%）、降水量は金沢、輪島ともに少なかった（金沢：62%、輪島60%）。
2. 7月第3半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年並（金沢：+0.1℃、輪島：+0.5℃）であった。日照時間は、金沢で多く、輪島で平年並（金沢：127%、輪島：102%）となった。降水量は、金沢でかなり少なく、輪島で少なかった（金沢：29%、輪島：75%）。
3. 7月17日発表の向こう1か月の予報では、平均気温は平年並～高く、日照時間、降水量は平年並と予想されている。

生育概況等

【生育状況】

1. 出穂期

ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年より4～5日早い。また、能登ひかりでも4日程度早い見込みである。

ゆめみづほ	加賀： 7月13日～19日	（近年より4～5日早い）
	能登： 7月18日～22日	（近年より4日程度早い）
能登ひかり	能登： 7月21日～23日	（平年より4日程度早い）

コシヒカリの出穂期は平年より1～2日早い見込みである。

コシヒカリ	加賀： 7月25日～31日	（平年より2日早い）
	能登： 7月30日～8月4日	（平年並～1日早い）

2. 草丈

コシヒカリで平年比103%（加賀地域102%、能登地域105%）と平年並、ゆめみづほで近年比105%（加賀地域105%、能登地域105%）と近年に比べやや長い。

3. m²あたり茎数

コシヒカリで平年比99%（加賀地域99%、能登地域99%）と平年並、ゆめみづほで近年比97%（加賀地域97%、能登地域94%）と近年並である。

4. 葉色

コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並である。

【病害虫の発生状況】

1. 雑草地における斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ等飛翔性カメムシ類）の発生が多く、今後、水田への侵入量も多いと予想され、注意報が7月9日に発令された（平成26年度病害虫発生予察注意報第1号参照）。
2. 葉いもちが各地で確認されている。
3. B L A S T A Mによるいもち病の感染好適条件の出現が多くなっている。

当面の対策

1. 早生は出穂期を迎えており、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）を刈り取り7日前まで行う。特に、登熟初中期（出穂後6～20日頃）に高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長するので通水を徹底する。なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
2. 用水をため池に依存している地域等では、計画的な用水利用に努める。
3. コシヒカリの2回目の穂肥は、高温条件下での稲体活力維持のため、地域の基準量を目安に適切に施用する。今後、天候次第で出穂が平年よりさらに早まる可能性があるため、ほ場をよく観察し、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終了し、適期を逸しないように注意する。

4. 斑点米の発生を防止するため、7月中に出穂する早生、中生とも出穂 7～10 日後と 14～17 日後の 2 回防除を徹底する。なお、防除後もカメムシの本田侵入が確認された場合は、さらに追加防除を実施する。
5. 出穂後の畦畔除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は本田防除の直前に行なう。
6. 穂いもちの発生を防止するため、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。なお、葉いもちの発生を認めたら直ちに周辺ほ場を含めて防除を実施する。